

日本人の顔が変わっていく

進化☆イケメン☆

「イケメン」といえばどんな顔を思い浮かべますか？
社会心理学を専門とする山口大学人文学部の高橋征仁さんは、
イケメンの時代変化の調査を通じて、興味深いことを発見しました。



イケメン顔を科学する

どのような調査から何がわかったのですか？

高橋 日本を代表する美男子コンテスト（18歳）のベスト30の顔写真を、1980年代後半から近年までの4つの時期に分けて平均顔を合成しました（図1）。

作成した平均顔の時期がわからないようにランダムに並び替えて、印象や好みをWebアンケートで調査し、15～59歳の1,150名に回答してもらいました。

その結果、「これが最新の美男子です」と示さなくても、多くの人が最近の平均顔ほど「新しい」と認めていることがわかりました。

さらに、新しい平均顔になるほど、より「穏やか」「女性的」「子どもっぽい」「かわいい」と評価される傾向「ベビーフェイス特性」があることが明らかになりました。

こうした美男子平均顔のベビーフェイス特性の評価については、調査協力者の性別や年代による大きな差は見られなかったことから、「最新の美男子平均顔ほどベビーフェイス特性が強い」という見方が広く共有されていることがわかります。

どの顔もイケメンですが、
最も人気だったのはどの顔ですか？

高橋 女性に魅力的な顔をたずねると、最新のD顔が圧倒的に人気でした。それに対して、男性の予想では、B顔やC顔を挙げた人も多くいました。このことから、女性の好みと男性の予想にはギャップが生じていることがわかります。

また、最新のD顔を選んだ女性は、恋愛や結婚の条件として、「身体的な能力」や「経済力」よりも、「見た目の美しさ」や「協調性」、「長期的な関係」を重視する傾向があることもわかりました。

遺伝子レベルで進化？

こうした傾向は美男子コンテストに限ったものでしょうか？

美男子コンテストBEST30

候補者平均顔の時代推移（図1）



A顔 1988-1994



B顔 1995-1999



C顔 2000-2009



D顔 2010-2022

高橋 実は、一般男性の顔においても、同様の傾向「ベビーフェイス特性」が見られます。高校の卒業アルバムを利用して、戦後の日本人男性の平均顔を合成して時代変化を見てみると、ジャイアンのような四角顔から、スネ夫のような逆三角形の顔を経て、現在のはのび太のような丸顔の男性が増えていることがわかりました。

さらに大規模な調査を試みなければ一概には言い切れませんが、社会全体においても男性の「力強さ」や「たくましさ」が減少し、「穏やかさ」や「幼さ」といった要素が前面に出てきているのではないかと考えています。

なぜ、こうした変化が起きているのでしょうか？

高橋 これまでの研究では、柔らかい食べ物を好む食生活や運動習慣、生活環境の変化、ジェンダー平等に伴う女性の社会参画の拡大などの社会構造の変化が指摘されてきました。しかし、それだけの要因では、骨格や顎の細さ、小顔で幼い顔つき、性差が目立たなくなるといった様々な外見の変化の説明はできません。

私は、環境などの変化によって人間が変化したのではなく、遺伝子レベルでの進化によって、社会構造や生活文化が大きく変化してきたと考えています。

ロシアの遺伝学者D.ベリヤーエフの実験で、攻撃性が低く、人間に従順で友好的なキツネ同士を選び、何世代にもわたって交配させて生まれたキツネは、攻撃性の低さ以外にも、短い鼻

づらや小さい頭、白いまだら模様やたれ耳といった外見の変化、遊びの増加などの心理・行動面での子供化など、特異な変化を遂げたという報告があります。人間にも同様のことがあてはまるのかもしれませんが。

女性が、攻撃性が低く従順性の高い男性を結婚相手に選ぶ傾向が強くなったことで、見た目も中身もより中性的で幼さを残した男性が増えているのではないかと考えています。

たった30数年でこれだけの変化があったとは驚きです。

高橋 生物としての人間の変化は、これからも社会や文化の変容を生んでいくと思われます。そして、女性の好みは社会状況や環境に応じて変化するものと考えます。もちろん価値観は人それぞれですが、大きく見れば、より穏やかな男性を求める女性の好みも、次世代のより穏やかなイケメンを生み出してきたといえるでしょう。

これだけの変化が30数年で起こるのなら、長い人類の歴史で見ても常に大きく変化していると考えられそうです。

それぞれの時代で、どのような結婚相手に魅力を感じ、どのような子孫を残してきたのかという選択の積み重ねとして、人類の歴史を捉えることもできそうですね。人間が今も進化のまっただ中であることを改めて感じました。

知ってもっと身近に!

プログラミングって何だろう?

「自分のかいた絵を、自分で指示して動かして楽しかった」「コンピュータの中がもっと知りたくなりました」これは、プログラミングを体験した小中学生の感想です。プログラミングは複雑で難しいと思われがちですが、原理自体は意外と簡単です。実は誰もがいつもやっていることなのです!プログラミングとは何か、どんなことができるのか改めて考えてみませんか?

YU-PRSS 山口大学広報学生スタッフ 別府 桜羽子

プログラミングで どんなことができる?

毎年「夏休みジュニア科学教室」という小中学生向けのイベントが、山口県内において行われています。そこで講師を務める山口大学情報・データ科学教育センター長の山口真悟さんにお話を伺いました。このイベントでは、実際に「スクイーク」というソフトを通じたプログラミングの体験を行なっています。このソフトを使えば、ゲームを自分でつくって楽しむことができます。

例えば、自分でかいたネズミの絵を簡単なマウス操作だけで、好きな角度で、どんな風に動くのか指示するプログラムを作成することができます。使い方を覚えれば、ゲームだけでなくロボットやホームページ制作にも応用が可能です。

ねずみを道に沿って走らせよう



適当に指示しても うまくいかない!?

イベントに参加した小学生の一人は、「正確にプログラムを作らないと、正しく動いてくれないということがとてもよく分かった」と語っています。実は、プログラムはやみくもに作成してもうまく動かないのです。どんな目的で何をしたいのか、コンピュータに対して適切に指示する必要があります。難しい作業に見えるかもしれませんが、しかしこれは日常生活の中で誰もが無意識にやっていることです。

例えば、誰かに頼みごとをするとき、その内容を正確かつ順序だてて伝える必要があります。そうすれば、そのひとは正しくスムーズに動いてくれるでしょう。しかし、うまく伝えきれなければ、内容は捉え間違えられ、思い通りにいきません。プログラミングで必要な思考力は、日常生活においても重要であるということです。

「プログラミング的思考」が 必要!?

山口さんは、プログラミングには「論理的思考力」が必要であり、同時にそれはプログラミングを通じて身につけることができる、と語ります。論理的思考力は「試行錯誤する中で養われる力」であり、最初から完璧に身につけている必要はないということです。

例えば、先ほどの図のねずみが自分の思うように動かなかったとき、「どうすれば次はうまく動くのか?」と考えるでしょう。「この方法でうまくいかないならば、別の方法はどうか?」と修正を繰り返すうちに、自分のプログラミングと結果とのつながりが見えてきます。しだいに正しい因果関係を理解できるようになっていきます。

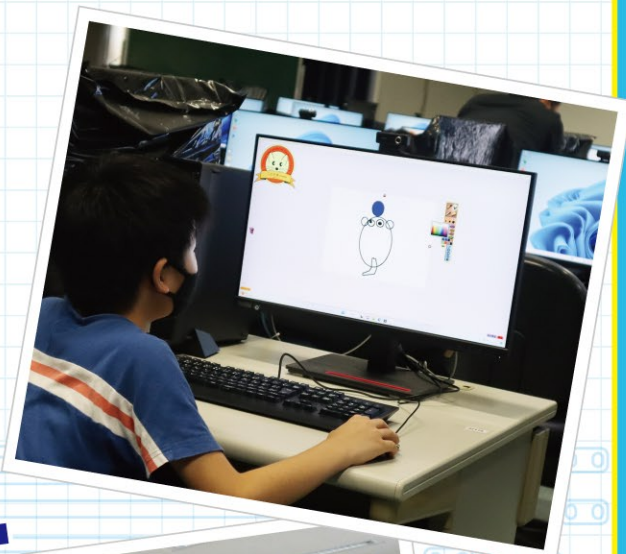
こうしてコンピュータに正しい指示を出すことができるようになっていくのです。「これはとても重要な力となります」と山口さんは言います。

失敗にこそ価値あり!

とはいえ、読者の皆さんの中には、何度も失敗を繰り返すことに不安や恐れを抱く方もいらっしゃるかもしれません。しかし山口さんは、「失敗の中から新しいアイデアが生まれる」と語

ります。一度失敗しても、自分なりの正解にたどり着くまで楽しみながら何度も挑戦すること。それは「自分の力でできた」という達成感を生み、論理的思考力の向上だけでなく、失敗を恐れない姿勢にもつながるでしょう。

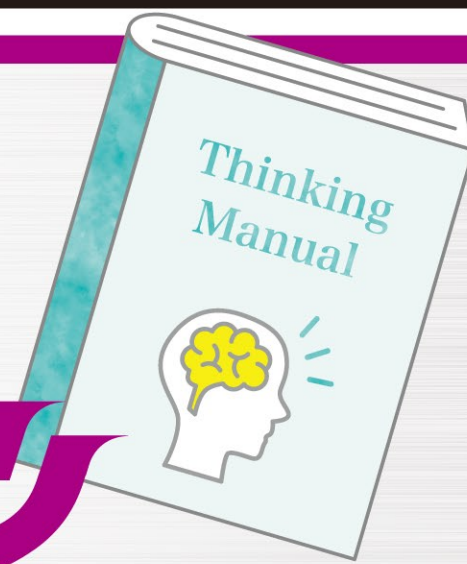
プログラミングは決して特別で難しいものではなく、誰でも楽しく使うことができるものです。今回取り上げた「スクイーク」などのソフトに親しんでみると、プログラミングへのハードルがぐっと下がるかもしれません。ぜひ、いろいろなプログラミングを経験してみてくださいね。



夏休みジュニア科学教室の様子



あなたの意思は どのようにして決まる？ 思考のトリセツ



朝ご飯は何を食べようか、昼休みは誰と遊ぼうか…私たちの日常は意思決定の連続です。情報を正しく理解し、より良い選択をするためにも、思考のしくみを知っておきませんか。

誰もが陥る認知バイアス

突然ですがクイズです。「コンビニエンスストアと美容室。全国で店舗数が多いのはどちらでしょう？」

つい「コンビニ」と答えてしまいそうですが、実際は美容室です。コンビニの5倍も多く存在しています。コンビニは普段よく利用することから、店舗数も多いだろうと、私たちの判断をゆがませてしまうのです。

続いて算数の問題です。「スマートフォンとケースを合わせると1,100円です。スマートフォンは、ケースよりも1,000円高いです。それぞれいくらでしょう？」



とっさに「スマートフォンは1,000円、ケースは100円」と答えてしまったのではないのでしょうか。それではスマートフォンはケースよりも900円しか高くなりません。よく考えると、スマートフォンは1,050円、ケースは50円であることがわかります。このように直感的な判断は間違いやすく、間違っていることにさえ気づかない場合もあります。

こうした思考のゆがみを心理学で「認知バイアス」といいます。認知バイアスは私たちの日常にたくさん潜んでいます。

得するよりも損したくない！

みなさんは「500円をもらったときの嬉しさ」と、「500円を没収されたときの悲しさ」の感情の大きさは同じだと思いますか？ 実は、失うことは得ることのおよそ2倍のインパクトがあることが明らかにされています。何かを得るよりも、何かを失うことの方が、より大きなインパクトがあるのです。

これは、認知バイアスのなかのひとつ、「損失回避」と呼ばれるものです。失うことばかりに着目すると、ネガティブな気持ちを引き起こすため注意が必要ですが、テスト勉強などの場面では、「もし目標を達成できなかったら、ゲームができなくなってしまう」などと考えると、それを避けるために勉強のスイッチを入れられるかもしれません。

「速い思考」と「遅い思考」

社会心理学を専門とする山口大学教育学部講師の長谷和久（ながや かずひさ）さんは、「私たちの思考には、多くの人に共通する2つのシステムがあります」と語ります。一つは、スピーディーに直感的・感情的な判断を下す「システム1（速い思考）」。もう一つは、ゆっくりと論理的・分析的な判断を下す「システム2（遅い思考）」です。私たちは日常においてこの2つの思考システムを使い分けています。たとえば、赤ちゃんの笑顔を見たときに「喜んでいるな」と一瞬で判断するのはシステム1です。それに比べて2けた同士の計算などじっくりと考える必要があるときはシステム2が働いています。

この2つの思考は、人間の進化の過程において培われてきたといわれています。たとえば、茂みでござそと音がした場合、「風かな？」「それともライオンかな？」などとゆっくり考えているのは、ライオンだった場合はとくに殺されてしまいます。「ライオンだ！逃げる！」というシステム1による直感的な判断は、人類の生存に貢献してきたといえます。一方でシステム1に頼りすぎると、冒頭のような先入観や判断ミスにつながることもあります。そのため注意が必要なのです。

正しい判断をするために

近年、認知バイアスを悪用した巧妙な犯罪が増えています。知り合いのSNSアカウントを装った詐欺、高齢者をねらったオレオレ詐欺などは

認知バイアス



春のことわざ

作者 みさか



企画：YU-PRSS 山口大学広報学生スタッフ 清水 聡乃

夏みかん

よかったね。よかったよ。

夏みかん。国語の教科書でおなじみの、あまきみこさん著「車の色はそらのいろ」に登場します。瑞々しい香りと、「よかったね、よかったよ」という蝶々のささやきが心に残る物語でした。

そんな夏みかんは、山口県が発祥の地です。江戸時代に長門で偶然発生し、明治時代に萩で広く栽培されました。当時は明治維新によって身分を失った元士族の家を中心に栽培されたということです。

当時は初夏に取れるみかん類は珍しく、甘すっぽくて瑞々しい夏みかんは暑い日にはぴったりの果物として全国に広まりました。

世が世なら侍だった人たちにとって、夏みかん栽培は不慣れだったこと

でしょう。おそらく失敗を繰り返しながら努力を重ね、そして山口県の特産品に育てていったのだと思います。本当によかったね。

よかったよ。

YU-PRSS 広報学生
スタッフ紹介

別府 桜羽子

人文学部 2年

テレビ局でバイトを始めたのですが、初取材で昆虫を食べました(笑)セミのからあげは意外とおしかったです。

清水 聡乃

農学部 4年

ヤマミィとずっと仲良くなって、写真撮影のときにヤマミィのいろいろな感情を引き出せるように頑張ります！

小野 理恵

外部ライター

普段から「限定」という言葉に弱い私。ははあ、これは損失回避にアプローチしているんだな。別の視点で考えるコツを学ぶことができました！



発行人 山口大学長 谷澤 幸生 / 編集長 山口大学教授 坂口 有人
デザイン・企画 株式会社無限 / 発行 山口大学総務企画部総務課広報室
〒753-8511 山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5007 FAX 083-933-5013
山口大学 web サイト <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学、各種SNSやっています！

山口大学では公式SNSとして、Facebook、YouTube、LINE、X (旧Twitter) をやっています。ぜひご覧ください！フォローもお待ちしております♪

お聞かせください！あなたのご意見・ご感想
ご意見・ご感想等はAcademi-Qのwebページから

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/academi-q/index.html>

※皆さまからお寄せいただいたご意見等は、匿名で情報誌の誌面で紹介させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。



編 集 後 記

四国に地質調査に行ってきました。断崖絶壁の一本道の先にきれいな集落が、かつてはありました。もう10年ほど前から誰も住んでいません。今では道路も崩れてしまいました。補修されることもありません。

崩壊した崖の道を避けて、ぐるっと山の中を歩いて行きました。小さくてもきれいだった集落は、すっかり草と木に覆われて荒れ放題でした。もはや見る影もありません。

道路の真ん中にテントを張りました。外につながる一本道が崩壊しているので、車が通ることもありません。夜は波の音とシカの鳴き声だけが聞こえました。

人がいなくなっていく。その事実を強く実感しました。